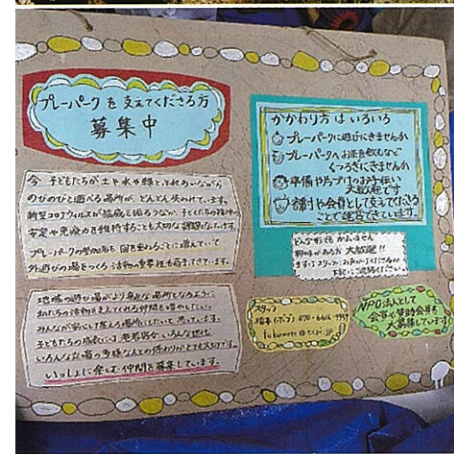




鷹の台周辺の、 子育てしやすい 街づくり

東京都小平市
NPO法人
こだいら自由遊びの会





「NPO法人こだいら自由遊びの会」は法人化する前身の任意団体時代から数えると、20年以上地域の子どもたちに外遊びの場、プレーパークを提供する活動を続けています。主な拠点は西武国分寺線鷹の台駅そばの、中央公園樹林帯です。

プレーパークはデンマーク発祥の外遊び活動です。ダイナミックに遊べるように、見守る大人が配置されていますが、口出しはなるべくせず、子どもの意思を尊重します。昨今では空き地や自然環境が少なくなり、意図的にこのような場所を確保する必要があります。こうした遊び場を保障していかないと、子どもの遊びは室内でのゲームや、商業的な遊戯施設に限られてしまいます。子ども時代に培うべき、体力や気力、コミュニケーション能力を身に着ける機会も失われてしまいます。プレーパークは子どもが自分で創意工夫しながら、仲間と遊びを通して成長する場です。この活動は子どもだけでなく、多世代が関わり、活動を通して地域が活性化していく下地を作ります。

また並行して取り組んでいる、ニュージールランド発祥のプレイセンターという就学前の子どもと親の集いでは、親が学び、自主運営します。ニュージールランドでは、生涯学習の場という位置づけで、大人と子どもの双方に国からの助成があります。国の教育方針の中には、「子どもは地域の中で育つ」という明確なコンセプトがあり、親を孤立させません。親もプレイセンターでエンパワーされながら、社会の一員として、地域に貢献できる人材として成長します。「自由遊びの会」のスタッフにも、プレイセンター育ちの親が多くいます。

私は国分寺市で「プレイセンター・ピカソ」という活動を19年続けてきましたが、日本のお母さんの多くは子育てに自信がなく、他人からどう見られているかを気にしています。そういう普通のお母さんが、座学だけでなく、子どもの観察や場の運営を通して仲間を作り、育ちあいながら自信をつけていく姿を何百人も見てきました。彼女たちは卒業してからも、幼稚園や学校で活躍しています。また、職場に復帰してから保育園に子どもを預けながら仕事をしている人も、プレイセンター時代しっかりと親子の絆を作っているのです。長時間離れていても比較的ストレスが少なく見えます。また仲間を作り、ピンチの時は助け合っている事例をたくさん見えています。鷹の台でもぜひプレイセンターを作れるようにしていきたいです。

現在は活動を始めたころには想像できなかった、子どもの貧困が広がっています。プレーパークにも昼ご飯抜きで遊んでいる子がいます。そこで、有志と民家を借りて「風鈴草子ども食堂」を始めました。まず地域の多世代が子ども食堂を通じて顔の見える関係になり、忙しすぎて子どもに優しくできない親に少しでもホッとしてもらえようという思いから取り組んできました。ところが新型コロナウイルスの流行で普段の子ども食堂ができなくなりました。現在はお持ち帰り形式で続けています。社会福祉協議会や、子ども家庭支援センターとつながり、事情のある家族とも直に接しています。風鈴草子ども食堂はあまり広いスペースではないため、これからの新しい生活様式には対応できないでしょう。しかし、子ども食堂のニーズは高まる一方です。今後は町ぐるみで、持続可能な活動へとシフトさせていくべき



と考えます。

昨年小平市鷹の台周辺の住民がまちづくりをテーマに「鷹の台ひとえん会」を発足させました。私は「公園・子育てワーキンググループ」の中に入れていただきました。1年目は会の主旨を地域の方たちに発信していただくことをはじめ、主にまちづくりの学習会、ワークショップ、自治会にアンケート調査などを展開しました。

鷹の台駅前商店街のはずれにある12ヘクタールの土地が、小平市の公園予定地になっています。駅に近く、面積も広いので、公園内に子育てのしやすい施設を建設してほしいと思っています。商店街もシャッターを下ろしている店が出始めています。公園に子育て世代が集まることで、街が活性化すると考えます。広い公園では3密を避けて子ども食堂ができることでしょうか。ここにプレイセンターを立ち上げ、若い世代がソーシャルキャピタルとして運営に加わることが望ましいと思います。また、インクルーシブ公園の機能を持たせ、多世代が見守り障がいがある子もない子も分け隔てなく過ごせるようにしたいです。継続的に啓蒙活動を心がけることで、町全体がやさしく育っていくことを目指します。

今年は子育て世代に向けてアンケート調査をしたり、学習の機会を作ったりしていくつもりです。鷹の台は玉川上水が近く、緑が多い落ち着いた街ですが、高齢化も進んでいます。何時までもよいところを残しながら、子どもを地域で見守り、子育てがしやすい街へとリニューアルしていくことが望まれます。プレーパーク活動を通して見えてきた子どもが育ちやすい街の姿を、多世代で協力して作ってみたいと考えます。